

進木

進木【すぎ】・・・『杉』の語源。ぐんぐんと上に向かって、まっすぐに進む木の様子。



第12号

2024年11月 発行

「学年・クラスの繋がり」

すぎ一ね

1・2年生が10～11月に「いじめ防止推進授業」を行いました。みなさんの【振り返り】を交流します。ぜひ、読んだ内容を自分自身のこととして考えてみてください。

- ① 「いじめ」をなくするために『あなたができること』・『クラスができること』 **本号**
- ② 『本時の感想』 **次号**

いじめられている人を見つけたらすぐに助けてあげたい。心のきずは一生直ることはないし、直たとしても、思っただしてしまう時があると思う。だから、そんなきずをこまめに作らせないようにこれから、相手を想いやる心を持って行動していきたいです。

いじめられている人を助けてもまだやられるかもしれないからまずはいじめられている人を変えなきゃだと思った。そのためにクラスのみんなが力くことが大切だとおもった。

いじめをしてもいいという雰囲気を作らないということが大切だと思いました。人はいつのまにか、周りに合わせてしまう生き物なので、良い雰囲気はいい場所につながっていくと思います。

人を心なさいと思う人ができないように全員に積極的に話しかけて仲間はずれにならないようにしたり、友達がイジメをしていたら、ダメだよと言える勇気を持つこと。自分が加害者にも被害者にもならないために、自分にも悪いところがあったかを考えて、悪い事をしたなと思ったら、すぐにやめること。

・自分達のクラスはイジメをなくしようとみんなが思えばいいと思う。
・自分やイジメにかかるとなるとみんなが力を合わせていじめるのをなくして、それをどう解決するの考えたらみんな笑顔になれると思う。

ふんいきづくり。みんなが仲良く。クラスで、しやあひの苦手な人もいじめるかもしれないけど、みんながそれをうけいれなくていいべきだと思う。そうすると、その子を入りやすくたのびやすくなると思う。

クラスみんなが、仲よくする。例えば、最初のAさんのやつだってAさんだ。でクラスに仲良い人だ。ていうはずだし、その仲良い人とか誘ったら、クラスみんなが1人ぼっちになることがなく打ち上げにいけると思っています。1人の人をつくっていいことですよ。

暴言を言っている人が注意したりいじめがなければいいように言ったりする必要はないと思います。暴言は言われている人でなく、聞いている人もくろしくなるということ。

いじめがでないような雰囲気を出したり、誰かからいじめたり、いじめられたら先生に言ったり、みんなが注意をする。1人1人の自分の行動、自分の言動言葉に責任を持つ。

道徳の存在、「いじめをなくすため」の時間をつくる。

先生や親、スクールカウンセラーなどの大人の人たちが周りの方々に相談をする。人によって態度を変えたりしない。人によって苦手な人とかいじめると思うけど、だからと言っていじめをしないのはおかしいから、そもそもいじめをしない。クラスのアンケートなどでクラスの現状を確認する。

1人1人が言葉遣いがいいように、暴言や上下関係がでないようにクラスを作る。そのためには全員がいじめが怖いように、という思いがある。何事にも協力でき、良いふんいきな教室ができていいなと思います。

もっとみんなを知ろうとおもおうせい。

自分がされて嫌なことは、絶対に人にしないことを心がけることが大切だと思いました。学校のルールを破ることは、いじめが始まるきっかけになるとわかったので、改めてルールをし、守ろうと思いました。常に周りの人のことを考えて行動することを習慣づけていくことも大切だと思っています。

一人ひとりの意識が必ず学校を幸せな居場所にできる！

